

地元の「新光苑・美術館」に行ってきました！

篠崎 辰夫

最近市内のあちこちに出現した「新光苑美術館」の看板で、どんな美術館なのか気になっていたが、市の情報誌に掲載された美術館の絵に誘われて見学してきました。「新光苑」は障害者施設なので、そこの利用者の作品を展示する美術館とばかり思っていたが・・・。



場所は、熊谷さくら運動公園のすぐ西隣り。施設の建物とは別棟に美術館があるものと思って、施設の前をうろうろ探していたら、職員から施設の受付に案内された。そこで一人500円の入館料を払って観覧者用プレートを受け取る。

まず、廊下にあるテレビで、以前苑長が出演した「開運!なんでも鑑定団」のビデオを見せられる。由緒ある陶器の皿7点セットのお宝らしく、鑑定結果はなんと1500万円。美術館の一角に展示してあるが、値打ちが分からない。

そのあと、美術館に案内されるのかと思っていたら、美術館は、施設の廊下、通路の壁。施設利用者の生活空間を利用した「障害者施設内美術館」なのだ。長い通路の両脇に、国内著名画家のたくさんの絵が展示されている。平成26年に地域交流の輪を広め、文化の発展に寄与できるようにと、施設内にこの美術館をオープンさせたもの。施設利用者の生活スペースなので、当然利用者の車いすが絶えず行き来する。当初は気になって戸惑ったが、展示されている絵の素晴らしさに圧倒されて、それも気にならなくなる。

皆さんの生活の邪魔にならぬよう、静かに見ていると、ほどなく苑長が現れ、お願いもしないのにずっと案内してくれた。自由に見たかったのだが・・・。これらの絵は、苑長夫妻が長年に亘り収集したもので、苑長自身が選び抜いた逸品ぞろい。100号クラスの大きな絵もたくさんある。広い館内のほぼすべての通路の壁が、大小様々な絵で埋め尽くされ、まさに壮観、見応えがあった。

最後に苑長室の中まで案内してくれたが、そこには、最近購入したばかりという絵がたくさん眠っており、まるで倉庫のよう。近々また買い付けにいく予定だという。やはりお金は、あるところにはある。苑長の話によると、展示されている絵は、総額3億円にもなり、すべて施設に寄贈されているとのこと。

少々耳が遠いようなので、年齢を聞いたら、89歳とのこと。まだ現役バリバリだ。とくに絵に対する造詣の深さ、情熱たるや凄いものがある。

苑長の説明に熱が入り、午後1時過ぎに入館し、施設を出たのは3時を過ぎていた。ちなみに、平日のこの日この時間帯に、他の見学者は見られなかった。まだ知名度不足なのか。障害者施設というイメージからか。あれだけの絵がもったいない。もっと多くの人に見て欲しい気がする。

今回は、苑長ペースで自由に見られなかったのですが、こんど又、ゆっくり見に行くことにしよう。

「新光苑美術館」について詳しくは、ホームページの「美術館探訪」に掲載しました。 [<こちら>](#) をクリックしてご覧下さい。